伊達政宗公生誕450年記念 特別対談

知っているようで知らない 現代に通じる政宗公の想いを読み解く

エフエム仙台(date fm)アナウンサー
名護ひと美 アナウンサー
宮城県民共済ラジオ番組
「みやぎスマイルプロジェクト」担当
仙台生まれの仙台育ち

宮城学院女子大学学長
平川 新 教授
東北大学名誉教授
文部科学省文化審議会専門委員
東北歴史博物館協議会会長

宮城学院女子大学学長 平川 新 教授 × エフエム仙台(date fm)アナウンサー 名護ひと美 アナウンサー

宮城県民共済が提供するラジオ番組「みやぎスマイルプロジェクト～宮城の歴史さんぽ道～」では、伊達政宗公の生誕450年を記念して特別番組を放送します。宮城学院女子大学学長・東北大学名誉教授の平川新教授をゲストにお迎えし、政宗公が遺した功績や、そこに込められた人々への想いなどを読み解きます。

今回は番組のオンエアに先立ち、対談の一部を誌上公開します。インタビュアーは、エフエム仙台「みやぎスマイルプロジェクト」でおなじみの名護ひと美アナウンサーです。

技術者を集め、豊かなまちづくりの礎を築いた政宗公

名護 政宗公生誕450年は仙台・宮城の歴史を振り返り、これからの地域づくりを考える絶好の機会でもあります。まずは仙台藩祖・政宗公が仙台城を築くまでの歩みについて教えてください。

平川 政宗公の父・輝宗の意思を継いで、政宗公が伊達家の当主となったのは18歳のとき。今でいえば、18歳にして県知事に就任したようなものです。米沢から岩出山、仙台へと移った政宗公は、1601年に仙台城と城下町を築き始めました。

名護 仙台城の立地は素晴らしいですよね。

平川 仙台城は本丸が崖の上。当時のお城は〝平城〟が主流でしたが、政宗公はあえて〝山城〟にした可能性があります。

やがて領内を巡見した政宗公は、あまりにも荒地が多く、未開拓なままになっている土地が多いことに驚き、新田開発に力を注ぐようになります。家臣たちの食いぶちである新田を増やし、同時に生産力も上げようとしたのです。

仙台は広瀬川の段丘の上につくられた城下町なので、どうしても生活用水が必要だと考えた政宗公は用水を引く工事にも着手しました。それが四ツ谷用水と呼ばれるもので、仙台市内で今もその痕跡を確認することができます。

名護 そういえば、中心部のアーケードにも痕跡がありますね。

※詳しくは表面をご参照ください。

平川 四ツ谷用水は、私も歩いて現地調査を行いましたが、用水を流すための勾配の取り方が絶妙なんです。高低差をうまく活かしながら、碁盤の目状に用水を引いた高度な土木技術には驚かされます。

名護 政宗公はインフラの整備を国づくりの基本と考えたんでしょうか。

平川 そうです。仙台湾岸に点在していた沼を水路でつないでできた貞山運河も、政宗公が遺した偉業の一つです。これには川村孫兵衛という治水の名手がかかわっていました。川村は長州藩の出身ですが、政宗公が今でいうスカウトをしてきた人物です。仙台藩で活かされた高度な技術の背景には、卓越した人材を見抜く政宗公のスカウトがあったんですね。

政宗公はキリシタン宣教師を擁護していたのですが、実をいうとキリシタンの中には高度な鉄の精練技術の持ち主が多く、それ故に技術者の保護に努めたからではないかと考えられています。

▲最初の堀が政宗公の命によって開削された貞山運河

世界に目を向けた造船事業を通じ、被災地の復興へ

名護 歴史をひも解くと、政宗公が仙台城を開城してから10年後の1611年には慶長三陸大地震が発生しました。その2年後、政宗公はサン・ファン・バウティスタ号を出帆させていますが、一体なぜこのタイミングだったんでしょうか。

平川 慶長三陸大地震の規模はマグニチュード8・5。大きな津波が押し寄せ、約5，000人(仙台藩だけで約1，800人)もの犠牲者が出たといわれています。古い検地帳には「塩入悪地」と記されているように、仙台の沿岸部は塩抜きをしないと農作物もつくれないような状況に陥りましたが、家臣団が入植し、百姓も開墾に加わって再開発を進めました。

名護 2011年の東日本大震災に匹敵するような大地震と大津波に見舞われたんですね。

平川 こうした状況下にあっても政宗公は自らの戦略を変えず、当初の計画通り支倉常長ら慶長遣欧使節団をヨーロッパへ向かわせるべく、牡鹿半島で一大造船事業に取りかかりました。大津波の被災地でもあった牡鹿半島には、推定で4～5千人もの職人が集まったのではないかといわれていますが、造船事業による経済効果は計り知れないものがあり、今でいう被災地の復興支援が行われていたと考えられます。

政宗公が想い描いていた海外展開と、サン・ファン・バウティスタ号の造船による被災地復興。政宗公は大震災という苦難を乗り越えながら、いかなるときでも未来を見据え、地域の復興のための施策を講じていたと考えられます。

▲海外と地域の復興に想いを馳せて出帆したサン・ファン・バウティスタ号

名護 政宗公の陣頭指揮は現代に通じるものがありますね。

平川 政宗公の海外戦略は、いわば富国戦略のためのものでもありました。16世紀半ばから17世紀初頭にかけては、スペインやポルトガルとの間で南蛮貿易が盛んでしたが、日本の貿易拠点は九州をはじめとする西日本が中心でした。海難のリスクに加え、仙台という市場そのものに魅力を感じてもらえず、南蛮人たちが仙台まで足を伸ばすことはありませんでした。

それならばということで、政宗公が可能性という帆を広げたのはメキシコでした。「日本で一番メキシコに近いのは仙台」――そんな柔軟な思考により、多様な国づくりに向けた政宗公ならではの戦略が図られていったのです。

時代を超えて今に生きる政宗公の愛情

名護 仙台藩が260年間も維持できたことには、どのような理由が考えられますか。

平川 徳川将軍家の後ろ盾として、ナンバーワンの座を狙うのはやめ、あえてナンバーツーの地位を確保したこと、伊達家と徳川家の間には、そのような歴代の恩義があったからでしょうね。仙台藩のお家騒動として危惧された伊達騒動の際にも、徳川幕府からは「伊達家は安泰である」という通知が出され、藩のお取り潰しはありませんでした。

名護 新田開発や国際貿易、インフラの整備、技術者のスカウトなど、現代に生きる私たちに多くの功績を遺してくれた政宗公ですが、仙台・宮城を代表する寺社や仏閣の中にも、政宗公が育んだ文化が息づいていますよね。

平川 大崎八幡宮や陸奥国分寺薬師堂、瑞巌寺などの名刹・古刹にも優れた建築技術が活かされています。もちろん建造物だけでなく、そこに施された屏風絵なども一流の画師に描かせたようです。

領民が安心して豊かな暮らしを送れること、それは政宗公にとって、もっとも大きな願いの一つでした。領民の安全・安心を願い続ける祈りの場として、心の安寧を保つことこそが国づくりの基本になると、政宗公は考えていたに違いありません。安心できる暮らしは国や地域だけでなく、私たちの家庭や職場にも通じるものがあります。

名護 政宗公の国づくりには、人々への深い愛情が根づいていたんですね。知っているようで、あまり知られていない政宗公の功績。450年という時代を超えて、現代に息づく政宗公の想いは、かけがえのない郷土の誇りだと思います。本日はありがとうございました。

▲桃山建築の粋を凝らした大崎八幡宮

特別対談の詳しい内容は

- エフエム仙台
- 4月16日(日)
- 夜7時～7時55分

みやぎスマイルプロジェクト「宮城の歴史さんぽ道」特別編 ～伊達政宗公生誕450年～

の中で放送します。どうぞお楽しみに。

Date fm Sendai 77.1